

【金沢区】令和7年第2回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和7年6月11日 15時00分～16時15分
場 所	金沢区役所5階1号会議室
出席者	<p>【議員：5名】 谷田部 孝一議員（座長）、 高橋 のりみ議員、黒川 勝議員 竹野内 猛議員、坂井 太議員</p> <p>【金沢区：30名】 齋藤 真美奈 区長、野坂 高志 副区長、 船山 和志 福祉保健センター長、 渡邊 誠 福祉保健センター担当部長、 渡邊 知幸 金沢土木事務所長、 三村 英明 金沢消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和7年度 個性ある区づくり推進費・自主企画事業執行計画 2 その他 (1) 第5期金沢ささえあいプラン（素案）に対する区民意見募集の実施結果</p>
発 言 の 要 旨	<p>1 令和7年度 個性ある区づくり推進費・自主企画事業執行計画</p> <p>竹野内議員：「金沢区地域福祉保健推進事業」の「民生委員・児童委員広報啓発事業」について、12月の一斉改選期を見据えながら担い手の確保に取り組んでほしいが、見解を教えてほしい。</p> <p>菅野福祉保健課長：民生委員・児童委員の担い手の確保は大きな課題だと認識している。12月の一斉改選に向けて今年の2月～3月に各連合町内会で、改めて民生委員・児童委員の役割や活動について説明し、早期に候補者への声掛けをお願いした。また、やりがいや魅力を改めて伝えられるように、広報よこはま金沢区版5月号への特集記事の掲載、地域ケアプラザへの新たなチラシの配架、金沢文庫駅前でのPR活動などを行うなど、広報にも力を入れている。</p> <p>竹野内議員：担い手の裾野を広げていくために民生委員・児童委員の負担</p>

軽減を図ることも大切。市内のいくつかの区では独自に民生委員・児童委員の活動をサポートする「民生委員・児童委員協力員制度」を導入している。金沢区の民生委員・児童委員の皆様からも同様の制度導入を求める声がある。私からも福祉保健課に検討を進めるようお願いしているが、検討状況を教えてほしい。

菅野福祉保健課長：協力員制度については、区の民生委員・児童委員の皆様からも様々な意見をいただきしており、一部の区で独自に制度を導入していることは承知している。民生委員・児童委員の担い手の確保や負担軽減策は全市共通の課題であり、区ごとに異なる仕組みで実施するのではなく全市共通の実施が望ましいと考えている。今年度は、局による「バトンタッチセンター制度」が試行的に全市的に導入される。この仕組みを最大限活用し、実施状況や効果を踏まえながら、全庁的な検討を進めていきたい。

竹野内議員：反対を含めて様々な意見もあることは承知している。全市共通で行うのが望ましいのは私も全く同じ思いだ。一方で目の前の負担を少しでも軽減することで頼みやすくなるという声もある。できれば一斉改選の12月、遅くとも来年度から選択肢の一つとして協力員制度を選択できる環境を整えていただきたい。

次に、「令和7年度 金沢区内の各局主要事業」資料での、「28 市立図書館の再整備・機能拡張（地域図書館のリノベーション）」について、どのようなスケジュール感で、どのようなリノベーションを行う予定か。

石川読書活動推進担当課長（金沢図書館長）：教育委員会や金沢図書館では図書館サービスの向上に向けた取組を進めている。その一環として地域図書館を対象に居心地の向上を目指して内装のリノベーションを予定している。7年度は金沢図書館及び戸塚図書館がその対象。リノベーションのスケジュール感は単年度、今年度中での実施に向けて進めている。上半期に設計、下半期に施工、3月までに完了予定。リノベーションにかかる休業期間は可能な限り短い期間としたい。リノベーションの詳細が決まった段階で周知していく。

金沢図書館は、今年開館45周年を迎えるが、この間、大規模な内装改修は行われていない。書棚が過密で本が取り出しづらい、閲覧席数の不足、

親子でくつろいで過ごせるスペースが少ない、床のカーペットの汚れなどの課題を抱えている。居心地の良い図書館を目指し、金沢図書館のリノベーションのコンセプトとして、「誰でも 読みたい本が見つかる 一人でもかいてきに！ 親子でもくつろげる！どちらもかなえるリノベーション」を掲げている。カウンターや床、閲覧机の刷新、書架の増設、席の拡充、くつろげるソファの設置、小さいお子さんが靴を脱いで楽しんで絵本に触れ合う小上がりスペースの拡充など、事業者のアイデアもいただきながら、検討を進めている。また、5月に実施した491名のアンケート結果や関係団体の意見も踏まえていく。

竹野内議員：図書館の目の前がイオンのショッピングモールで、金沢八景駅が近いこともあり自転車や歩行者の通行も多い。特に図書館・地区センター前の横断歩道は、国道を渡る信号待ちで込み合い、歩きづらいという声を多く頂いている。図書館のリノベーションに合わせて駐輪場と歩道を隔てる植栽の部分を撤去するなどで工夫して、歩きやすい環境整備も検討してほしい。

中盛地域振興課長：この植栽は、令和4年度に市民の安全性の確保と憩いの場の創出を目的とした「公共施設・公有地での緑の創出事業」として整備し、一部国費を充当している経緯がある。このため直ちに撤去することは難しい。歩道が狭いことは承知しており、将来的に環境整備ができるタイミングがあればそれを考慮に入れながら進めたい。

竹野内議員：できるだけ早く進めていただければと思う。

次に、地域の移動手段の維持・確保の取組について、前回の区づくり推進横浜市会議員会議でも確認したところだが、東朝比奈と六浦駅をつなぐバス便の実証運行、能見台・富岡地域の「とみおかーと」本格運行へ向た、直近の調整状況について伺いたい。

木村区政推進課長：東朝比奈と六浦駅をつなぐバス便については、これまでに2度の実証実験を実施した上で、現在、休止中となっており、運航再開に向けて京急バスと協議中。事業者からは運転再開の可否について8月までに回答をいただくこととなっており、地域にも5月7日にこの旨を説明した。事業者から運行を再開できる旨の回答があった場合は、地域の皆

まとともに利用促進に向けて取り組んでいく。もし回答結果が芳しくなかつた場合は、別事業者に運行を打診していきたいと考えている。

とみおかーとについては、本年 10 月からの運行開始を目指して区、都市整備局、京急電鉄、地域が参加する検討会で議論を重ねている。区としては、引き続き局と連携しながら導入に向けて支援を行っていきたいと考えている。

竹野内議員：「令和 7 年度 金沢区内の各局主要事業」資料の「11 河川改修事業」に関連して、釜利谷郵便局及び坂本バス停そばの宮川にかかる「待橋」の狭あい解消と氾濫を抑えるための工事について、地元の期待、関心も大きく、何度か状況確認をしている。長年の課題だった用地取得は完了し、道路改良も具体化し、地中の埋設管の移設等の協議を行っていると聞いている。今年度どこまで進捗する見込みか。

黒羽根土木事務所副所長：宮川改修事業は瀬戸橋から待橋までの約 2,040 mが工事区間であり、護岸整備率は約 96% となっている。残る事業は待橋の架け替えを含めた約 52m の護岸整備のみとなっている。待橋については、下水道河川局が中心となり、地元・関係機関との協議調整を実施するとともに、令和 12 年度の本体の工事着手を目途に、電柱・通信管・水道管・下水道管などの支障物の移設を進めていく。ここは地下埋設物がかなり集中しており、今年度はその一環として支障電柱の移設を実施する予定。令和 12 年度が本体工事なので、それまでに地下埋設物の移設をなるべく早期に終わらせるよう動いている。

竹野内議員：「令和 7 年度 金沢区内の各局主要事業」資料の「14 既存建築物安全推進事業」に関連し、空き家対策ゴミ屋敷対応について。区内のいわゆるゴミ屋敷の前で、地べたに座って課題を抱えた所有者と同じ目線で職員が気さくな対話をしている場面に遭遇し、少し離れた場所から拝見していた。粘り強い尽力に感謝申し上げる。急速に高齢化が進む金沢区は空き家も増えており管理不全についての相談をよく受ける。区内の空き家に関する相談件数、相談内容について伺いたい。

木村区政推進課長：空き家の相談件数は直近 3 か年で年間約 30 件程度の新規相談を受けている。今年度は 4 月以降、すでに 14 件受け付けており、

うち7件が新規となっている。内容は、「樹木繁茂」が全体の8割程度で最も多い。残りは本体・ブロック塀などの「建物」、次に「衛生害虫」となっている。

竹野内議員：それぞれの対応状況と課題についてはどうなっているか。

木村区政推進課長：相談者の困りごとを丁寧に聞き取り、現地確認や所有者の調査、通知等の対応を行っている。今年度は例年に比べて相談が増えていることから、建築局が試行している外部委託等を有効活用しながら対応を図っている。昨年度から特定空き家の一つ手前の状態である「管理不全空家」の認定制度が始まっており、金沢区でも候補案件の選定や、認定に係る建築局との連携を進めている。

課題については、空き家の適切な管理は所有者等の責務であり、区としては所有者を調べ適切に管理して頂くよう通知することが取組の中心となるが、所有者を調べて改善を促しても反応がない事案が増えている。また、空き家の相続が孫の代に至る例も少しづつだが現れてきており、改善までに時間を要する要因になっている。そのため、まずは空き家を発生させない取組が重要であり、今年の1月に「空家無料相談会」を実施した。セミナーと個別相談を行いセミナーには延べ75名、個別相談には24名が参加した。空き家になる前に早めの準備をすることで、将来的なトラブルや費用など、家族への負担を軽減できるため、今後も広く周知していく。

竹野内議員：横浜市でも令和3年に「横浜市空家等に係る適切な管理、措置等に関する条例」を制定し、危険性の高い場合は応急的危険回避措置もできるようになっている。そこまで至らなくても伸びた樹木が越境し、隣の敷地に枯葉がたまったり枝が落ちたり危ないと感じるケースも増えている。相談件数も増え、相手もある話で難しい対応が求められていることも理解しているが、少しでも相談者の不安軽減につながるよう、相談後も対応状況をこまめに伝えるなど、より丁寧な対応を心掛けてほしい。

次に、「金沢観光振興事業」に関連して、先日は横浜金沢観光協会年次総会に参加して、昨年度決算のほかさまざまな観光賑わいイベントの主催・共催、金沢ブランドの認定事業、広報、物販など今年度も取り組みを充実させていく報告を伺った。一方で国策として力を注いでいるインバウンドについて、2024年の訪日外国人来客数は過去最高の3,687万人に達し、今

年1月から3月の訪日来客数は1,053万人で、前年同期と比べ23%増加している。国として訪日来客数6,000万人越えを目指しており、横浜市の中でも非常に恵まれた観光資源を持つ金沢区もその受け皿になりたいと思いを新たにしている。区長も総会のあいさつの中でインバウンドの受け皿としては今ひとつという現状認識を示されていた。外国人に向けての情報発信を強化していくことが大事であり、横浜金沢観光協会のウェブページについて、多言語対応、まずは英語対応の検討を行うべきではないかと思っているがどう考えているか。

中盛地域振興課長：横浜金沢観光協会のウェブページについて、現在はグーグルの翻訳を利用して多言語に対応している状況だが、外国人向けのウェブサイトとしては一部翻訳されていなかったり、読みづらい部分もあり、まだまだ不十分という認識はしている。インバウンドを含めた金沢区のさらなる観光振興に向けて、ウェブページの多言語対応など、横浜金沢観光協会と連携して検討を進める。

高橋議員：「待橋」の件だが、最初に質問したのは12年ぐらい前だと思うが、ぜひ進めてほしい。

次に、「ログ金沢」の残り1,000m²の跡地利用について、以前近所の方々から建物に関しての要望があったが、現在の進捗状況について教えてほしい。

木村区政推進課長：金沢消防団第二分団の器具置場などに用いるための2階建ての建物を建設し、残りの敷地は最長で15年間の公募貸し付けを行う方向で調整が進んでいる。これを見据え、令和7年3月に、敷地全体が健康福祉局から消防局に所管替えされている。なお、公募貸付を行う予定の敷地についても、地域の意向を踏まえ、低層利用を条件とした公募となる予定。

高橋議員：地域の要望に寄り添うのは、消防局も画期的なことだと思う。

選挙について質問する。まず、選挙公報は告示になってから候補者が原稿を提出するので印刷して有権者に届くまでに時間がかかる。ホームページなどにいち早く掲載できたら良いのではないか。

次に、福祉関係の施設に入所されている御両親を持つ方から、「本当は両

親に選挙で投票をさせたいが施設にいるとできない。」と言われた。調べると投票を行っている施設と行っていない施設がある。投票は国民の権利であり大事なことだ。その辺の考えを聞きたい。

小柳総務課長：選挙公報について、印刷にはどうしてもタイムラグがあるので、告示日の翌日には神奈川県及び横浜市のホームページで閲覧できるようになっている。

また、選挙が告示されるたびに、大規模な施設などには、ぜひとも入所などされている方に選挙の機会を提供したいので施設での投票実施の導入をお願いしているところである。一方で施設側の負担などもあり、全ての施設でその取組が進んでいるわけではないという現実もある。引き続きしっかりと働きかけを続けていきたい。

高橋議員：私の郷里である徳之島では、先日の町長選挙の投票率が 92.85% だった。選挙の投票率が上がると良いと思う。

次に、先日の基地対策特別委員会で、旧富岡倉庫跡地の話と横浜市大病院の再整備に関して発言させていただいた。これまでの区内の開発では、金沢八景は残念ながら区画整理事業で終わっており、金沢文庫も全く進捗がない中で、唯一動いているのは旧富岡倉庫跡地だと思っている。新杉田まで近く利便性も高いので、容積率の緩和など都市計画を変更してマンションなどができるれば、若い世代が帰ってくる。また、工業団地にも隣接しているので、そこで働く人も増えるのではと思って議論をしていたら、突然、国家公務員住宅を切り離した計画が出てきた。それに関しては大変遺憾に思っているのでここで発言させていただいた。

また、市大病院の再整備に関して、林文子前市長の時に、市大百周年を迎えるにあたり 500 床ある福浦と 500 床 ある浦舟を足して 1,000 床の病院を（根岸住宅地区に）作りたいと説明を受けた。福浦が無くなることについて皆さんから責められたが、私自身もお詫びしながら市大のためだと理解してもらった。ところが、昨年 1 月に、どこで議論したかわからぬが市大病院だけ浦舟でやりますと報告を受け大変遺憾に思っている。市大の先生方の中には、福浦がなくならなくても良いのではないかという人もいる。もう 1 回きちんと議論した方がいいと思う。今回、病院がなくなったら、10ha がなくなる。何かに使わなくてはいけない。状況を、金沢区の皆さんに是非知っていただきたい。置き去りにされているじゃないかと

思っている。

木村区政推進課長：旧富岡倉庫跡地について聞いている限りでは、一体的な利用を前提条件とすると、事業提案の自由度が非常に低下するため進出意欲の阻害になると聞いている。大きく開発できるということは、私どもとしても是非ともという気持ちはあるが、現実的な判断がなされたのかと思っている。

市大移転については、ただ移転するだけでは地元が反対するだけというところもあり、土地利用については我々からも声を上げていく必要があると思っている。

高橋議員：旧富岡倉庫跡地に関しては、今の話は違うと思う。実際にサウンディングを2回実施し、2回とも提案が来ている。提案がゼロなら分かるが、提案される方々はあれだけ大きな土地について提案するため設計の方と話をしながら銀行とか融資の関係とかについて話しているはずだ。

(意見のみ)

黒川議員：子ども向け、若者向けの事業がたくさんあり、新規事業が多く、斎藤区長のカラーが出ていると思った。以前も言ったが、一方的に事業を行うのではなく、双方向で子どもの意見をしっかり聞く、終了後アンケートを取り次に生かすなど、子どもの意見を反映させるような事業にしてほしい。何か考えがあれば聞かせてほしい。

小柳総務課長：子ども向け、若者向けの事業・取組は複数掲げており、担当する部署も複数にわたっているが、代表してお答えする。例えば、防災の関係はここ近年、小中学生の防災教育に力を入れている。単にアンケートを取るだけではなく、若い力を地域で生かしてほしいので、彼らにやる気や前向きな気持ちを持ってもらえるよう、学校の先生などとも連携しながら、自由な意見を言ってもらう場などを様々な工夫をして作っていきたい。

その他の事業・取組についても、ただいまご発言いただいた点を踏まえながら進めていきたい。

黒川議員：特に、防災に関しては、平日の日中に大きな災害があったとき

には中学生の力は大きいと思うので、よろしくお願ひする。

次に、地域福祉保健計画について、前回計画を作った時にも、臨海部の工業団地の皆さんに置き去りにされている感があると指摘をした。住んではいないが金沢区で暮らしている一員であり、平日の日中は金沢区で生活をしており、大きな商業施設もたくさんある。産業振興センターも臨海部の工業地帯の中の福利厚生施設という位置付けでもあり、クリニックがあったり歯科医院があったり、工業団地との仕事のマッチング事業などもあった。若い世代の働き手が増えると保育施設のニーズが生まれてくる。臨海部に対する福祉保健計画も考えるべきだと思うが、考え方があれば教えてほしい。

菅野福祉保健課長：横浜市の地域福祉保健計画は、社会福祉法を根拠とした行政計画として、地域における福祉と保健の取組を一体的に推進するものとして策定している。中でも「地区別計画」は、地域住民が主体となって策定・推進するものとなっている。現在のプランの素案では、「LINKAI 横浜金沢」をコラムで紹介する予定でしたが、関係団体からも意見を伺いながら、どのような掲載ができるか検討していきたい。

黒川議員：横浜金沢産業連絡協議会や横浜市金沢団地協同組合とよく相談して進めてほしい。

次に、「かなざわっこを共に育む応援プロジェクト」の「保育力向上サポート事業」について、勤続年数がおおむね 10 年程度の中堅職員が対象となっている。10 年程度の中堅職員に仕事に定着してもらい、保育の楽しさを再認識することも大事だが、入ったばかりの若い職員の方が離職しないようにすることも必要だと思う。中堅職員を対象にした理由は何か。

飯田学校連携・こども担当課長：今回の対象者は、おおむね 10 年程度の中堅保育士としているが、研修受講者が研修の結果を自園に持ち帰り、広めることも期待している。若手を指導する立場の中堅保育士が、園全体に研修結果を良い影響として与えてくれることを期待し、このような形で実施する。経験の浅い保育士等の人材確保や育成も課題だと思うので、今年度の実施結果も踏まえて検討していきたい。

黒川議員：よく検証して、10 年程度の中堅職員に研修を実施したら、次年

度は若手を対象にするなどの工夫も必要だと思う。

「LINKAI 横浜金沢推進事業」の「ハローワーク連携・人材確保支援事業」は非常に良い取組だと思う。できれば地元の雇用を推進してもらいたい。うまく情報提供をしていただき、大勢の人に来ていただき、マッチングできれば良いと思う。目標を立てて結果を残してもらいたい。

木村区政推進課長：このハローワークの取組は、組合とハローワークが実施していた合同企業面接会により多くの方が参加するように、面接会に先駆けて企業紹介を目的として就職相談会を実施するもの。来られた方がその後どうされたかを把握していくことができるため、その中で実績等を確認していきたい。

黒川議員：数字的に成果が上がってくるとあの企業の皆さんも、成果が上がるなら来年は出てみようかとモチベーションにつながる。逆に住民の方もこういうところに行くと就職先が決まるよ、アルバイト先が決まったよと噂になれば大勢の人に来てもらえる。

次に、「金沢防災えんづくり事業」の「地域防災拠点の運営支援」について、「男女ニーズの違い」とあるが、避難所生活の女性の課題の話をよく聞く。避難所の代表を男女一人ずつにするとか女性の視点や考えが避難所運営に反映されるような仕組みが大事だと思うが、そのあたり議論はあるのか。

小柳総務課長：毎年度、複数の地域防災拠点が集まったブロック連絡会を開催しており、今年度はその中でも男女共同参画をテーマにて働きかけていきたい。また、区民向け防災講演会を2月に予定しているが、例えば男女共同参画をテーマにした講演をできればやりたいと思っている。拠点の運営に女性が少ないことは課題だと思っている。いまお伝えしたような取組を進めながら、できるだけ女性に拠点の運営に参画していただけるよう、各拠点の考えも踏まえながら取り組んでいきたい。

黒川議員：宮川の河口の浚渫(しゅんせつ)をしてほしいとあのあたりの釣り船屋から言われている。下水道河川局が河川を管理し、みどり環境局が平潟湾を管理し、浚渫は港湾局しかノウハウを持っていないということで縦割行政が露見している。河口に釣舟が多く係留しており干潮になると船

底が海底に接してしまう状況になっており、何とかしないといけないと思っている。状況を把握して、区からどこが所管でありどのような対応をするか説明してくれるとありがたい。現状を把握していることがあれば教えてほしい。

黒羽根土木事務所副所長：浚渫に合わせて、道路局も護岸の道路敷の陥没対応についてみどり環境局等と連携し進めている。浚渫については連携して実施できるよう土木事務所からも働きかけをしていきたいと思っている。

黒川議員：野島公園の運河の海側に柵がある。その場所の底が抜けると危険なので立入禁止になって3年ほど経っている。何か把握していることがあつたら教えてほしい。

黒羽根土木事務所副所長：野島公園は、みどり環境局南部公園緑地事務所が所管になる。道路に接していないので土木事務所にはあまり情報は入ってこない。みどり環境局にはご意見を伝えていきたい。

黒川議員：数年前にみどり環境局が護岸を直したが、海のことは港湾土木などの専門家に直してほしい。護岸を直すなら、スロープを作つて子どもたちが遊んだりカヌーが出艇しやすいような護岸にしてほしいとの声がある。その辺についても働きかけをしてほしい。（意見のみ）

坂井議員：感じていることを話したい。自転車のマナーについて、道路に自転車の通行帯が描かれているため子どもはそこを通行するだろう。しかし、自転車が道路を通行することを前提としてまちづくりがされているわけではないと思う。空き家の問題もそうだが、ちょうど世の中が変わろうとしている時代だと思う。病院も工業地帯もそのままになっていて、今変わらないと壊れていく。

変わっていく金沢区に行政が追い付いていない。変わっていく金沢区のニーズに横浜市がついていっていないので工業地域がトラックの配送センターになる。大きなトラックが通れば道路に穴が開く。穴が開けば横浜市で面倒を見ないといけない。そういうことも含めて全部ズレてきているところがあるような気がする。例えば新しい公園が完成する。だけどあそ

このほかの壊れた公園は直さないのかと言われる。金を使ってやるところは良いが、今まで維持していたところに補充したり直したりと金を使っていないように感じる。

2 その他

(1) 第5期金沢ささえあいプラン（素案）に対する区民意見募集の実施結果

高橋議員：市民意見募集で集まった意見の数が本当に少ない。ここに出てきた意見だけを参考にするのもなかなか厳しい。どうやって意見を吸い上げるのか難しいと思うが、もっと意見が出るとよいと思う。金沢区の商店の人たちが企画したイベントなど様々な場を利用して意見を募集してはどうか。二次元コードを利用するなど、努力して意見の数を増やしてほしい。

坂井議員：他の意見募集でも意見が集まらないことがあるが、今は、「意見募集のことは知らなかった」と言われた時に「意見募集は実施していました」と言い返すだけでは許されない。今までだったらできたかもしれないが、これからはできなくなる気がする。「我々は意見を聞きました。だからこうしました。」と言うことができなくなる気がして心配だ。多くの意見をもらうとか話を聞かないと、これからは勝手にやったと言われる。もうちょっととうまく意見募集をしてほしい。

菅野福祉保健課長：計画をまとめるにあたり、地区で推進会議や地域の声を聴きながら作ってきている。今回の意見募集はこの数だが、それ以外でも実際に地域で話を聞いたものを反映して素案を作成した。一方で、必要な方にどのように情報を届けるかは課題と感じている。その方々に合った媒体があると思うので工夫していきたいと思っている。

黒川議員：「1（2）イ 関係団体等への説明」に書いてある団体を見ると、公的な団体で定例の会合があったときにビラを配って依頼するだけなので、返信が少ないのかなと思う。今日の会議資料にもあるが、「金沢区空き家等を活用した地域の『茶の間』支援事業」の茶の間の人たちなど、世代交流の拠点の人たちなどはいろいろな情報を持っている。親と子の集いの

	<p>広場などに行けばお母さんの意見をたくさん聞けると思う。そのほかにも、金沢区ママという団体は、ちょっと投げかけをすると皆さんにSNSで発信してくれて、すぐに30件40件の意見が集まってくる。そういう発信をしている人たちなど、今までと違うところにアプローチすると生の声を多く聞くことができると思う。ぜひそんな工夫もしてほしい。</p> <p>木村区政推進課長：区の広報を取りまとまる区政推進課にとって大事なご意見をいただいた。「金沢魅力プロモーション事業」の「魅力発信ポータルサイトのリニューアル」という事業がある。この事業自体は居住促進向けプロモーションだが、更新を行うにあたり関係団体との連携を深めていきたいという話をしている。それぞれのチャネルを有効に生かして区政への意見を聞いたり発信したりしたいと思っている。</p>
備 考	